

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

「学校教育と税金」

足立区立 蒲原中学校

三年 加藤 凜

中学三年生になった私は、受験に向けて高校について調べていました。そんなとき、高校の授業料無償化という制度が目に入りました。無償化になった際、どこからお金が出ているのか気になり調べてみると、税によってまかなわれていることがわかり気になって調べてみました。

私立高校授業料無償化は、従来所得制限がありました。二〇二四年から東京都は所得制限が撤廃されました。それにより、所得が多い世帯はもちろん、所得制限によってぎりぎり無償化が適用されなかった世帯も無償化を受けられるようになりました。結果、家計の負担が軽減され、経済的な理由から進学先が限定されることが減り、より自由に教育を受けられるようになりました。

この制度に対して私は、自分はとても恩恵を受けていると思います。無償化により、授業料の分のお金を他のことに費やすことができるからです。また、私立高校の授業料が高くて、私立高校に入ってやりたいことがあっても、諦めざるを得ないといけなかった人が、無償化によってより気軽に自由に私立の高校の選択ができるようになったからです。そして、今改めて考えてみると、中学生である今も机・椅子・教科書なども無償化されていて、自分がどれだけ恩恵を受けているかがよくわかりました。

学生の間は恩恵に感じていた税金も、大人になって、働くよう

になったら一つの負担につながっていきます。ましてや今現在、社会問題となっている少子化が進んでいることによって、二〇〇〇年のときは、三・六人で一人の高齢者を支えていたところを、二〇五〇年になるとときには、一・三人で一人の高齢者を支えていかなければいけなくなると思います。そうすると、一人あたりの納税額も多くなります。だから私は、少子化を改善するべきだと思います。しかし、子どもを産んで、育てるということは決して簡単なことではないので、少しでも多くの人が産みやすく、育てやすい環境作りに税金を使うべきだと思います。例えば、保育園の数が少なく、待機児童という保育園の利用を申請したにもかかわらず、保育園を利用できない子どもたちが年々増加しているので、保育園の数を増やすために施設費に税金をあてることです。このようにしていけば、子育てをしやすいような環境に変化していくと思います。

私はこの税の作文を通して、普段何気なく過ごしているこの日常は、税金によって支えられていることを知りました。でも、まだ税金について知らないことがたくさんあるので、今は税金についてよく知り、今後、社会の一員となったときには税金を通して、次の世代を支えていきたいと思いました。